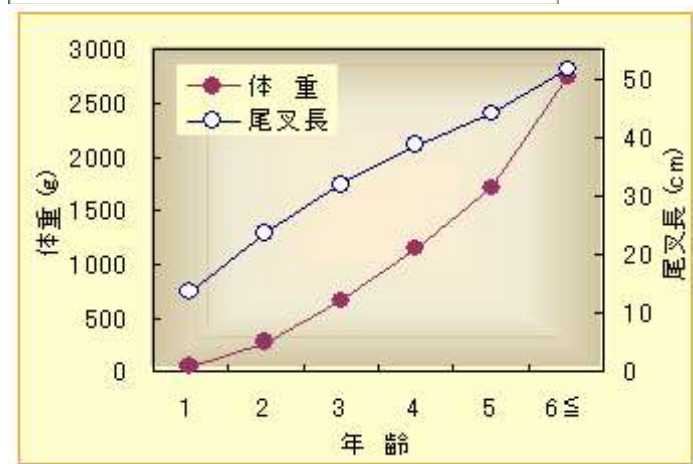
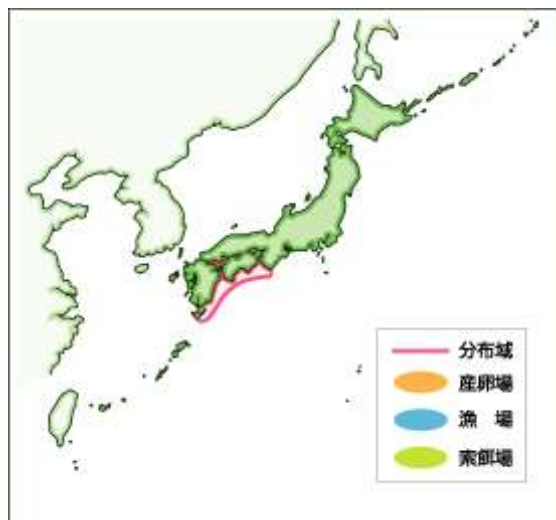


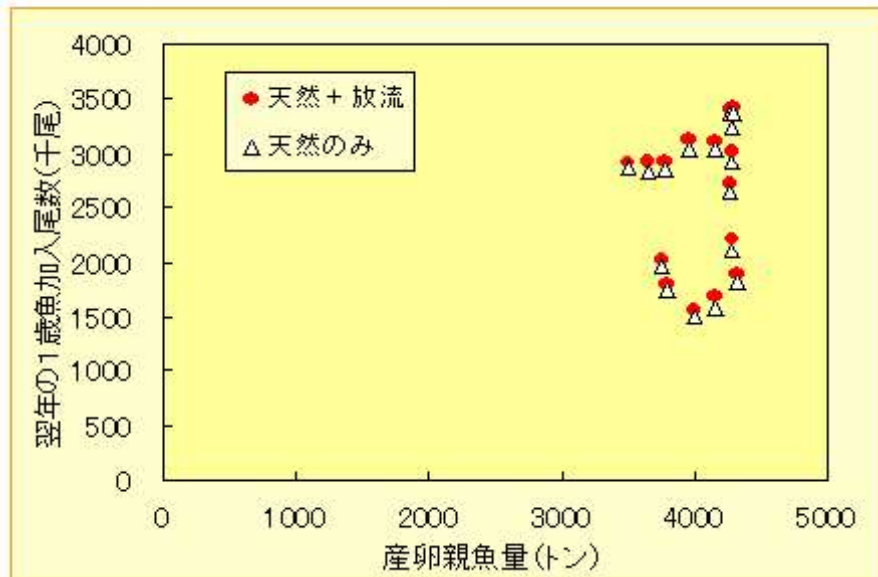
マダイ *Pagrus major*
太平洋南部系群 担当：中央水産研究所



生物学特性

- 寿命： 10歳以上
- 成熟開始年齢： 3歳
- 産卵期・産卵場： 春季（3～6月）、沿岸域
- 索餌期・索餌場： 周年、沿岸域
- 食性： 稚魚は多毛類、端脚類、アミ類、クモヒトデなど、未成魚以降はエビ・カニ類、貝類、イカ類、小型魚類など
- 捕食者： 大型魚類



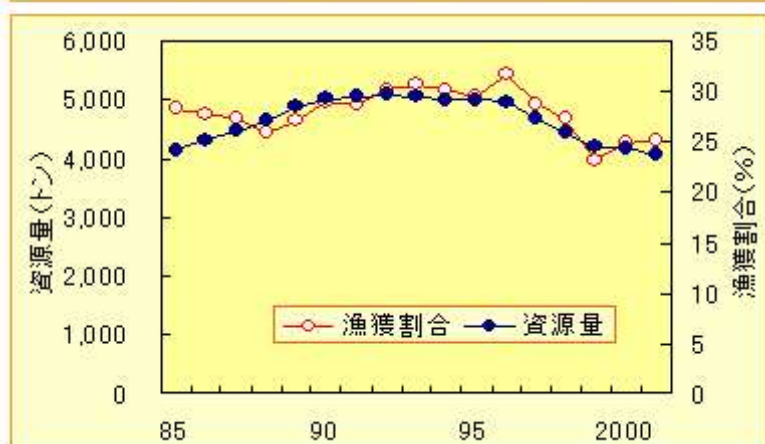
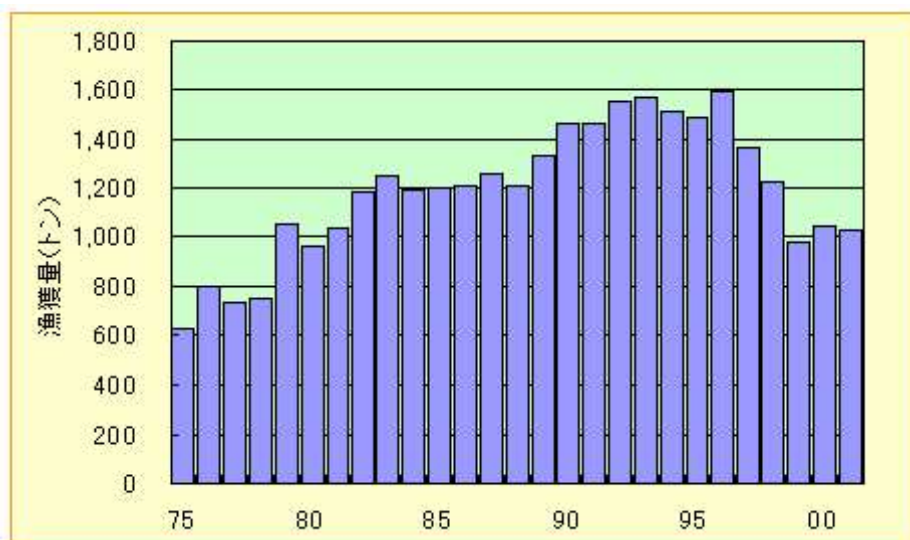


漁業の特徴

太平洋南部では釣り、刺網、定置網による漁獲量が多く、この3漁業種で約80%を占める。1975年以降の漁獲量の推移をみると、1990年までは増加傾向にあり、以降1996年までは1,500t前後の安定した水準を維持していたが、その後は減少に転じて2001年における漁獲量は1,031トンと、ピーク時の65%の水準にまで減少している

漁獲の動向

漁獲量は、1990年までは増加傾向にあり、以降1996年までは1,500t前後の安定した水準を維持していたが、その後は減少に転じて2001年における漁獲量は1,031tとピーク時の65%の水準にまで減少している。



資源評価法

1985年以降の年別年齢別漁獲尾数の推定結果を基に、Popeの近似式を用いたコホート解析により年齢別資源尾数、初期資源量および漁獲係数を推定した。最高齢（6歳以上）の漁獲係数については5歳の漁獲係数と同じ値とした。また直近年の年齢別漁獲係数については、最近3年間の平均値とした。

資源状態

資源量は1990～95年頃をピークに減少傾向に転じており、特に新規加入量の減少が顕著である。一方、漁獲係数は比較的安定して推移している。親魚資源重量と加入量との関係からみて、現在の漁獲係数を引き下げ、親魚資源量の回復を図る必要がある。また放流数を維持するとともに、種苗性の安定化や放流技術の高度化により添加効率の向上を図る必要がある。



管理方策

資源が低位で減少傾向にあることから、現在の漁獲水準を引き下げる必要がある。また再生産成功率が以前より低下している可能性があり、現状の加入動向下での資源維持を図る必要がある。また放流種苗が資源動向に及ぼす影響の定量的な把握は現在のところ困難であるが、今後とも放流数を維持するとともに、種苗性の安定化や放流技術の高度化により添加効率の向上を図る必要があると考えられる。最近年の再生産成功率の条件下で資源維持を図ることを目標としてABCを算定した。

	管理基準	ABC (トン)	漁獲割合	F値
ABC _{limit}	0.62 F _{med}	839	21%	0.23
ABC _{target}	$0.8 \cdot 0.62$ F _{med}	687	19%	0.19

F値は完全加入年齢である4歳の値で示す

漁獲割合 = $ABC / \text{資源重量}$

資源量は4月の値

資源評価のまとめ

- 資源量は1990～95年頃をピークに減少傾向に転じており、特に新規加入量の減少が顕著である
- 毎年300万尾を上回る人工種苗が放流されているが、再生産に及ぼす影響の評価は困難
- 資源状態は低位である

管理方策のまとめ

- 現状の加入動向下での資源維持を図る